

1 計画の概要

1. 計画策定の趣旨

技術の革新、消費行動や働き方の変化など、目まぐるしく変化し続ける社会環境の中、今後もビジネスの場や働く場として町田市が「選ばれるまち」であり続けるために、10年後、さらにその先の市の姿を見据えた産業振興の方向性を示す「町田市産業振興計画19-28」を策定します。

2. 計画期間

2019年度～2028年度

3. 計画の位置付け

町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」を上位計画として、「町田市産業振興基本条例」に基づき策定します。

4. 計画の推進体制

本計画を着実に推進するため、具体的な事業とそのスケジュール等を示した「実行計画」を策定します。

また、計画の推進にあたっては、市に加え、各産業支援機関、金融機関、大学等の教育機関、民間事業者等が互いに連携しながら取り組みます。

2 町田市の産業をめぐる現状と予想される変化

1. 産業の概観

- 2014年以降、市内の事業所数は微減、従業者数は横ばいで推移
- 事業所数・従業者数ともに「卸売業・小売業」の割合が高く、年間商品販売額は、2012年から回復傾向が見られる

2. 市内における事業者の現状

- 起業・創業の意欲が高く、町田市の開業率は全国平均を上回る
- 競争力強化や事業の拡大に前向きな事業者が多く、異業種と連携した取り組みが活発
- 人材の確保・育成や既存事業の継続・承継に向けた取り組みの重要性が高まっている

3. 町田市の産業をめぐる状況の変化

- 生産年齢人口（15～64歳）の減少により、労働力不足が顕在化
 - 多摩都市モノレールや小田急多摩線の延伸促進、大規模な国際大会の開催等による交通網や人の流れの変化
 - 第4次産業革命の進展により、新しい技術がより身近に
- これらの環境変化により、10年後、私たちのビジネス環境やライフスタイルは今と大きく異なっているかもしれません。（裏表紙にイメージを掲載しています。）

3 目指す将来像と施策の方向性

町田市の産業の現状や、今後予想される社会・経済に関する環境の変化等を踏まえ、本計画では「立ち上げる」・「拡げる」・「つなぐ」の「3つのチャレンジ」の促進・支援と、「ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり」からなる4つの柱を設定し、これらの柱に基づく施策を推進することで、＜ビジネスに、働く人に、心地よいまち＞を目指します。

また、施策の成果を測るため、計画全体及び柱ごとの成果指標を設定し、効果的な取り組みを進めていきます。

「4つの施策の柱」と目指す姿、及び将来像のイメージ

将来像

ビジネスに、働く人に、心地よいまち

計画全体の指標 付加価値額^{※1}の増加（経済センサスから） 現状値 5,416億円（2016年）

目指す姿

たくさんの新しい企業やビジネスが誕生し、起業・創業がしやすい風土が根付いている。

指標

開業率^{※2}の上昇
（経済センサスに基づき算出）

現状値

6.4%（2014年～2016年）

新分野・新技術への進出や異業種間連携等をきっかけに、市内事業者のイノベーションが促進され、自社や地域の強みを生かした他にはない新しい価値が生み出されている。

指標

1事業所あたりの付加価値額の増加
（経済センサスから）

現状値

5,070万円（2016年）

将来を見据えた人材育成と円滑な事業承継により、市内事業者の優れた技術・ノウハウが次世代に受け継がれている。

指標

事業所数の維持
（経済センサスから）

現状値

12,106事業所（2016年）

それぞれのライフスタイルに合った多様な働き方が実現できるまちとして、多くの人に選ばれている。まちに賑わいがあり、ビジネスに適したまちとして多くの事業者を選ばれている。

指標

昼夜間人口比率^{※3}の上昇
（国勢調査から）

現状値

91.7%（2015年）

施策の柱



「立ち上げる」チャレンジ
新たに事業を立ち上げる
チャレンジを支援します。



「拡げる」チャレンジ
事業者が競争力を高める
チャレンジを支援します。



「つなぐ」チャレンジ
事業を継続し、次世代へ承継
するチャレンジを支援します。



「ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり」
チャレンジを促進するための
環境づくりを推進します。

※1: 付加価値額 企業の生産活動によって新たに生み出された価値を指す数値。

※2: 開業率 一定期間中に新規に開設された事業所数(年平均)の、期首に存在していた事業所数に対する割合。

※3: 昼夜間人口比率 昼間人口(町田市に常住する人口から町田市外に通勤・通学している人口を除き、市外からの通勤・通学して来る人口を加えたもの)を、夜間人口(町田市に常住する人口)で割った値。これが100%を上回っていれば、通勤・通学のために流出する人口よりも流入する人口が多いまちであり、逆に100%を下回っていれば、流入よりも流出が多いまちということになる。